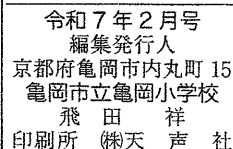


最近、週刊誌等のメディアが他人のトラブルを暴露することが目立ち、その結果として特定の人物が槍玉に挙げられることが多くなっている。これらの情報は、あたかも事実のように流されているが、果たしてどこまでが本当に正確な情報なのでしょうか。多くの人々がその情報を疑いもせず信じて、誹謗中傷を行う姿勢が見受けられます。さらに、そのような誹謗中傷をまう人たちは、ハンドルネームを用いたりして、しばしば自らの身元を隠し、責任を負わずに言いたい放題という現象が広がっています。

いったん情報の真偽は置いておいて、ともかく本来、トラブルは当事者が口で解決を図るものであり、第三者が口を挟むことは適切ではありません。特に、当事者から直接聞いたものではなく、週刊誌等のある種の部外者の情報だけを鵜呑みにすることには大きな危険性が伴います。なぜならそういった情報には、背後に自分にとって都合のいい方向に情報を操作する可能

性があり、真実が捻じ曲げられることがあるからです。歴史を振り返ると、日本は戦時中に情報統制やプロパガンダによって多くの命が奪われました。戦争と現在の状況は異なる次元にあると思われるかもしれませんが、行き着く先は仲違いや喧嘩、ひいては人権侵害にも及ぶことも考えられます。つま

るとこの同じではないかと感じます。この状況を察したか、ドイツやオーストラリア、ブラジルなどがSNS等の利用制限や禁止に乗り出していきます。情報に対するリテラシーの不定着さや情報の負の面がこのような国家としての判断を生んだのでしょうか。当然のことですが、国家による規制には法令が伴いますので、違反するとそれなりの処罰があります。最近の日本での国家による統制としては、令和二年に行われた「全学校閉鎖」が記憶に新しいでしょう。このように強い強制力があり、ある意味統制しやすいのです。しかし強制的に規制することをもつて統制することよりも、私たちは、この情報が溢れる現代、そして瞬時にその情報が広がる時代において、



避難訓練での様子

その真偽を見極める力を養うことが重要なのではないでしょうか。また、情報を受信する側だけでなく、発信する側も発信する方法について、どのような表現を使った発信が良いのか、受信者は気を悪くしないか、この発信した情報によってトラブルにならないか等、相手意識をもつことを身につけなければなりません。

「情報」というのは、学校という限られた場所、空間、時間だけでは学びきれないほど巨大な分野なのです。学校だけでなく家庭や地域全体で考えていくことが必要です。大学の入試でも情報Ⅰが追加されたことに鑑みると「情報」について学ぶことの重要さを物語っていると思います。

常に便利な利器の影には、私たちが向き合うべき課題が潜んでいることを忘れてはなりません。学校、家庭、地域等の皆さまと共に考え、学び合っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

[illegible]

二月行事予定表

さくら学報 生徒の学習生活

～木と友だちになろう！～

みぎのき美術館とのコラボで、ヤマサキエイスケさんと作品作り。



亀岡の工つウオーカーとして、南郷公園や亀岡駅周辺のゴミ拾い。

6年生が計画してくらめれた内容で、さくらもみんなでさつまいもを使った調理実習。



今年も大本花明山植物園で、季節の自然の観察とフィールドビンゴ。

三学きのめあて、学しゅうや学校生かつでがんばりたいことをかきました。

一年

わたしが三学きになんばりたいばんきようは、さんすうでとけいをまちがわずによめるようにがんばりたいです。ここのばんきようでも、みんなのまえて大きなこえではなせるようになりたいです。せいかつのことでは、げん気にあいさつをしたいし、ともだちにやさしいこえではなしかけたいです。

一年

ぼくが三学きになんばりたいばんきようは、たいいくのなわとびです。ひゃっかいじょうとびたいです。せいかつのことでは、わすれものをへらしたいので、じぶんでみなおすことをがんばります。

一年

ぼくが三学きになんばりたいばんきようは、さんすうのけいさんをまちがわずにはやくできるよになんばりたいです。音がくのかんばんハローニカもきれいにふけるよになんばりたいです。せいかつのことでは、けんこうにすこし、かぜにもまけない三学きにしたいです。

一年

ぼくが三学きになんきようでがんばりたいことは、かん字です。どうしてかという、字をきれにかくことをがんばりたいからです。学校生かつのことでは、わすれものをしないように気をつけたいです。

一年

わたしが三学きになんきようでがんばりたいことは、たいいくです。どうしてかという、とびがうまくなかったから、三学きはいままでできなかったこともがんばりたいからです。学校生かつのことでは、げん気にあいさつをすることをがんばります。

一年

わたしが三学きになんきようでがんばりたいことは、ひきさんとたしげんです。どうしてかという、はやくけいさんができるよになるためにがんばります。学校生かつのことでは、えをかいたら、いろをていねいにぬることをがんばりたいです。

冬休みの思い出日記

二年

ぼくは、あやべおんせんにキャンプに行きました。ひろばは、すごくひろかったです。ピザまんを食べました。

よるになると、ビーフシチューにパンをつけて食べました。あと、マシユマロも食べました。

そのあと、おんせんにはいつてあたたまりました。外ぶろにはいつていた時に雪がふっていました。おもしろかったです。

二年

ぼくは、家の近くにある木にゆずをとりに行きました。

高いところにあるゆずは、あみをつかり、木にのぼったりしてとりました。

ゆずは、ぜんぶで八十こぐらいとれました。たくさんとれてうれしかったです。ゆずぶろに入りました。

二年

おばあちゃんの家でおもちを食べるおてだいをしました。

まずは、白ごはんをおもちにするところからはじめました。そのあと、おもちを丸くしました。

できあがいたら、三人でおもちを食べました。中がもちもちでした。

また、おもちをつくって食べたいです。



二年

今日、和歌山の、アドベンチャーワールドに行きました。

パンダがさきを食べるところがかわいかったです。ペンギンは、あるいているところが、かわいかったです。海もきれいでした。弟のくつがびしゅぬれで、ママにおこられていました。

二年

今日の夜、家でクリスマスパーティーをしました。おじいちゃんやおばあちゃんといこの家でサントクロースに会った。

お兄ちゃんがサントクロースになって、みんなにプレゼントをくれました。お兄ちゃん、やせているので、サントクロースがにわなくて、おもしろかったです。家でみんながめっちゃわらわらして、楽しいクリスマスパーティーができてよかったです。

二年

き船じん社に行きました。

家でバスと電車で行きました。さかを二キロあるいて、じん社につきました。じん社には、いがいと人がいっぱいいました。じん社でおみくじをしました。水にうかべたら、文字がでてる紙でした。おみくじのけっかは、「吉」でいいほうでした。

かえりの中に、ペペーカステラを自分のお金でかいました。ペペーカステラを食べ、外はカリカリで、中はやわらかくておいしかったです。

詩の工夫を楽しもう

詩の工夫

それぞれの文章のはじめの文字だけを讀んでみると・・・

三年

とけいを見あげて
しんねんをそうぞうして

こたつに入つて
しあわせをねがい
そらをみあげて
ばあちゃんがニコニコたべる

三年

たけのことつてやいたら
けむりがくさい
のこったけむりがまだくさい
こはたけのこはえるとこ
ダンスをしたら生えてきた

三年

おおぞあらの中
ねがいごととして
がかなれますように
いちばんいい年になるかな

三年

うみだいすき
みんなだいすき
だけどちょっとさむい
いまのじきに入るのじゃなかった
すきだけどさむい
きらいじゃないけど

四年生では、二〇二五年に頑張りたいことをテーマに作文を書きました。

ねばり強い一年に

四年

二〇二五年になって、ぼくが頑張りたいことが、二つあります。
一つ目は、他の学年のお手本になることです。理由はこれまで六年生や五年生が頑張ってくれていたからです。

もうすぐぼくは、五年生になり、一年生や二年生のお手本として行動していきたいし、五年生や六年生が下の学年の見本となれば、亀岡小学校がより良い学校になると思います。二つ目は、あきらめずにやり続けることです。

す。理由は、五年生になったら、四年生の時よりもきつい運動や難しい勉強になり、とても厳しくなるからです。けれど、あきらめずに自信をもって立ち向かっていくような気持ちを持って、よい二〇二五年にしたいです。

二〇二五年にがんばること

四年

一つ目は、算数のべんきょうです。理由は、今年はどんな問題がくるのか楽しみだし、問題を解くのが楽しいからです。もちろん今年だけでなく来年もがんばりたいです。

そして二つ目は、わすれ物をしないことです。理由は、今年最初の学校の二日目には、忘れ物をしたからです。これはもうやばいと思います。もう毎日宿題かのように用意をしています。もちろん来年は、こんなことにはなりません。

最後に、三つ目は、時間管理です。理由は、しっかり時間を守る人と守らない人では、だんだん差がついていき、おいていかれてしまうこともあるからです。そんなことにならないために、ぼくは時間管理を選びました。これは、大人になっても意識することです。

今年、算数の勉強とわすれ物をしないことと、時間管理をがんばって、いい年にしたいです。

二〇二五年にがんばること

四年

わたしががんばりたいことは、二つあります。
一つ目は、算数をがんばることです。なぜなら、科目の中で一番苦手なのが算数だから、二〇二五年は、算数をがんばりたいと思います。

二つ目は、四月から五年生になって、高学年になることです。高学年になったら、ほかの学年のお手本になって、六年生をささえていかなければなりません。そして、今まで四年生で習ってきたことや、目標にしていたことが五年生で生かしていきたいと思います。

二〇二五年にがんばること

四年

ぼくのがんばりたいことは、二つあります。
一つ目は、学校のことです。その中でもノートを書くことです。ぼくは、二学期のとき、ノートが全然書けませんでした。だから、三学期は、ノートをなるべく書けるようにしていきたいです。

二つ目は、家のことです。ぼくは、お母さんやお父さんのお手伝いができていないと思います。特にお母さんがしんどいときにお手伝いができるようになりたいです。できるようにならばいいです。

「人権旬間を終えて」

二学期の終わりに、学校全体で取り組んだ人権旬間。取り組みを終えた感想や学んだことを、作文に表しました。

人権旬間を通して

五年

私は、人権旬間を通して感じたことが三つあります。

一つ目はあいさつです。今までは日常生活の中で、どの学年もありあいさつが聞こえなかったように思います。でも、人権旬間が始まると、あいさつを聞くことが増えてきたと感じました。そして、自分からも積極的にあいさつをすることが増えたと思います。それに、あいさつをすることで一人一人が気持ちの良い朝をむかえられたのではないかと思います。学校中があいさつの大切さに気づけた、とても良い期間だったと私は思います。

二つ目はろうか歩行です。いつもどの学年もうろう下を走っている人が多いと感じていましたが、人権旬間が始まってからろう下を歩く人が増えたと感じます。そして、前までは曲がり角でぶつかりそうだった人も、今では見当たらなくなってきたと感じます。ろう下歩行をすることで、おたがいの安全にもつながるので、人権旬間が終わっても続いて

ほしいと思います。

三つ目はできたこと見つけです。どの学年もいい所がたくさんあるのが一目で分かるくらい、いい所を書いた葉っぱがもぞう紙に生いしげっていました。今までの人権旬間と比べて今年の人権旬間は、どの学年もとてもいいところがあったと思います。そして、人権旬間でさらにおたがいを高め合えたのではないかと、私は思います。人権旬間が終わっても、学んだことを生かしてこれからの生活につなげていきたいと思っています。

人権旬間をふり返って

五年

私は人権旬間をふり返って、個性を生かして楽しく生きるということが大切だと思いました。

人権旬間の時に、紙に友達の良いところを書くというのをしました。授業の中で、友達に渡したりもったりしました。みんなたくさん書いていたので、その友達の良い所がよく見つけられているんだと感じて、すごいなと思いました。そして、私も友達の良いところをたくさん見つけられる人になりたいと思いました。

その他にも、あいさつ運動に取り組みました。今まで私は、あまりあいさつができませんでした。けれども、だれかが大きく元気な声で

「おはようございます。」
「おはようございます。」
と聞くと、相手の人も

「おはようございます。」と返しているのを見て、おたがいがあいさつをできているのがすごい事だなと感じました。だから、私も見習われないといけないなと思いました。

私は人権旬間を振り返って、感じたことがもう一つあります。それは、クラスのみんなを取り組んだ「ベル着・ベル準」です。取り組みまでは、みんなが意識できていなくて授業開始のチャイムで学習の準備をしていた、私もできていませんでした。だけど人権旬間

が始まってからは、チャイムが鳴るまでに学習準備をする人が増えていたので、意識をもつだけでこんなにできるようになるんだなと思えました。

人権旬間は終わったけれど、これからこれまでしてきた三つのことを続けようと思いました。

三学期のめあて

自分の長所と課題、どちらともに向き合い、卒業するまでにつけなければいけない力や行動目標を考えました。

六年

いろいろな場面でも手を挙げられ、自分の考えを伝えられるようになる。例えば、教室でもそうだし、学年集会や下校集会など、教室よりも人数が多い場面でも手を挙げられるようになりたい。

六年

分からないところをすぐにあきらめるのではなく、時間がある限り、最後まで必死にがんばって考える。そして、周りに流されないように、自分の意見や考えをもって相手に伝えられるようになる。

六年

小学校最高学年として、言われなくても行動(ゼロ指示行動)し、人の心を動かす行動をする。学習面では、普段の授業態度から全力で取り組む。また、宿題があってもなくても自主勉強を一日二ページ以上を目標に取り組み、四冊目の自主勉強ノートに入るようにする。

六年

ばくは、算数の文章問題が苦手だった、忘れ物をしてしまったなど抜けてしまうこともこれまでであったので、授業中しっかりと切り替えをし、算数では授業だけでなく、自

主勉強でたくさん練習をし、忘れ物もないように自分で確認する習慣を付けたい。

六年

私は、コツコツ勉強をすることが得意なので、苦手な教科にも進んで取り組み、自主勉強なども工夫してできるように三学期はさらに努力していきたい。

六年

私は、漢字を覚えることが苦手だった、毎日続けて努力することが難しかったりすることがこれまでであったので、苦手なことにも挑戦し、何事にも全力で取り組めるようにしてさらに成長していきたい。

六年

友達との仲を深めるために、たくさん関わったり助け合ったりして自分で考えて行動する。また、間違えてもいいから自信をもって、一日一回以上積極的に挙手をする。

六年

残り五%の学校生活を送る中で積極的な行動を増やし、少しでもクラスに貢献する。また、提出物を忘れず、連絡帳を欠かさず書く。忘れた原因を見つけ、それに応じた対策をする。

六年

みんなと協力したり自立したりして、もつと学年の仲を深めて楽しく過ごす。また、忘れ物を減らすために連絡帳を確認し、前日の夜と翌朝、家を出る前の三回チェックする。

給食週間

給食主任

一月二十四日から、一月三十日まで全国学校給食週間でした。それに因んで本校でも給食週間の取組を行いました。今年のテーマは、『なんでも食べて、元気な体になろう』

です。食べ物の栄養素を知ってバランスよく食べることを意識したり、食べ物に感謝する気持ちを養ったりすることがねらいです。

健康的に過ごすためには、病気を予防し、栄養バランスのとれた食事が大切になります。そこで、子ども達には、栄養素の働きを赤黄緑の三色に分け紹介しました。

「赤の食べ物(たんぱく質)」は卵・肉・魚・乳製品・豆等で主に体をつくるものになります。不足すると、背が伸びなくなったり、体が大きくなかったりします。また、成長期にカルシウム不足になると、将来、骨がもろくなってしまう。

「黄の食べ物(炭水化物・脂質)」はごはん・パン・麺・砂糖・油脂類等で、主に熱や力のもとになります。不足すると、力が出なかつたり、頭痛がしたり痩せ細ったりします。逆に摂りすぎると、太つたり虫歯になります。

「緑の食べ物(ビタミン・ミネラル)」は野菜・果物・きのこ等で主に体の調子を整える働きがあります。不足すると、腹痛になったり、肌荒れたり、イライラしやすくなったりします。

子ども達は、これらの学習をした後、『食べ物ビンゴゲーム』をしました。赤黄緑に色分けされたカードに、給食に出てきそうな食材名を記入し、自分のカードを準備します。

例えば、毎日の献立に登場する牛乳は、赤色の欄に「牛乳」と書きます。その後、食べた食材に○印をつけていきビンゴを目指します。

「鶏肉は何色かな?人参は?」と、栄養の種類を考えながらビンゴカードが出来上がりました。カード完成後は給食の度に、「あ、○出た!」「リッチー!」など、ゲームを楽しむ声であふれていました。普段、何気なく食べている給食ですが、この取組を通して赤黄緑の栄養素を意識して食べることができました。

また、献立への関心も高まったようでした。家庭でも、栄養素について話題にしたい、子ども達と一緒に楽しい食卓にしたい、できれば嬉しく思います。

自分なりの学び方探し

通級指導教室

通級指導教室とは、文部科学省によりまず、学校の中に設けられた専門的教育を行う場であるとされています。通常の学級で学ぶ子どもたちを対象としている通級指導教室は、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものとなってきています。

亀岡小学校には、通級指導教室が四教室あります。現在では、亀岡小学校の子どもたちだけではなく、亀岡市内の他の学校からも利用されています。京都府の通級指導教室は「きこえ・ことばの教室」として誕生し、多様な課題に即した特別なニーズへの対応が行われてきたと聞きます。亀岡小学校も通級指導教室としては、三十年前にこのような形で指導が始まりました。ことばの教室には大事に使われてきた教材が数多くあり、見る度に歴史の深さを感じます。私が担当になり、早二年度に「あ、ことばの先生。また教室見に来てね!」と子どもたちが声をかけてくれました。ことばの教室が子どもたちのすぐ側にある存在であることを嬉しく思います。そして、これまでの先生方がつないでこられた保護者の皆様とのつながりを改めて大切にしたいと思う日々です。担任や保護者の皆様からお子さんの様子を聞かせていただき多様な教育的ニーズのある子どもへの育ちを支援する教室でありたい、そのためにはと、どうすればよいのかと考えています。ことばの教室では、自分なりの学び方を見つけることを目標としています。子ども自身になりたい自分をイメージし、ものの見方、考え方、体の使い方を学んでいます。自分で自分なりの学び方を知り、学ぶ環境を広げる、選択できる手助けをしたと思います。

子どもたちが「できた!」「わかった!」と達成感を感じ、今後ともみんなが生き生きと学習する通級指導教室を目指したいです。